



緩和ケア新聞

回覧

平成29年2月

飛騨市民病院では緩和ケアチームを平成18年に発足させ、院内の緩和ケア推進のために活動してきました。また、平成19年には緩和ケア外来も開設しました。

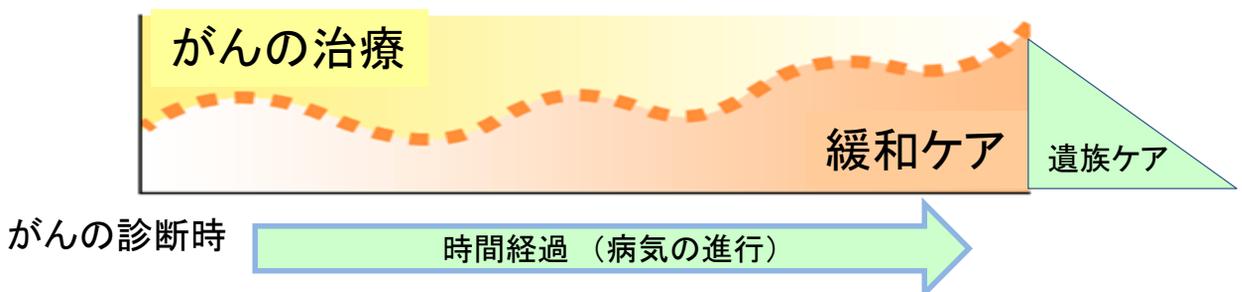
「緩和ケア」ってなあに？

緩和ケアとは、がんなど生命を脅かす病気と診断された時から治療の間、そしてその後の生活の中で生じる身体的な苦痛や気持ちのつらさを少しでも和らげるため、それぞれの患者さんとご家族が“その人らしく”過ごせるように支援させていただくことです。

「緩和ケア」はがんと診断されたときから始めます。

体や心などのつらさが大きいと、体力を消耗することにより、がんの治療を続けることが難しくなります。そのため、がんと診断されたときから、「つらさをやわらげる＝緩和ケア」を始める事が大切です。

また、早い段階から緩和ケアを受けた場合、生活の質(Quality of Life=QOL)が改善され、予後にも良い影響があるという調査報告もあります。



＜緩和ケア外来＞

毎週火曜日
診療時間15:00～17:00
受付時間16:30まで
問い合わせ先：
TEL. 0578-82-1150(代)

＜主な相談内容＞

- ★ 痛み、だるさ、息苦しさなどの変調について
- ★ 病気になったことで起きる様々な心配ごと
- ★ 病気のことを知る怖さや不安について
- ★ 在宅療養の支援について
- ★ 家族が持っている悩みについて 等

本当は 怖くない

医療用麻薬(オピオイド)

～後編～

皆さん前号は読んでいただけましたでしょうか？引き続き今号でもオピオイドの真実について説明させていただきます。



Q. 使うと寿命が縮まる、使うのは末期ということか？

A. 寿命が縮まったりはしません。

また、オピオイドを使うのは末期だからではなく、痛みがあるからです。痛みはがんのどんな時期にも起こり得る症状です。過去の不適切な使い方として、亡くなる直前ぎりぎりになってやっと使用していたことがあり、そのイメージが残ってしまっているようです。痛みを取って快適に過ごすことは、精神衛生上良いだけではなく、生命を支えることにも繋がるはずです。

Q. 身体に害がある(副作用の心配)のでは？

A. 多くの薬には副作用があります。オピオイドも例外ではありません。しかし、多くの副作用は防ぐことができます。

例えば、3～4割の人が吐き気を感じる可能性がありますが、現在は予防的に吐き気止めを使っていることが多く、吐き気を感じる人は少なくなっています。また飲み始めの吐き気は2週間ほどで身体の慣れが起きて出なくなるものです。

便秘になることが多いため、下剤を併用していく必要はあります。飲み始めに眠気を感じるがありますが、これも最初の2-3日で軽くなること多い症状です。

通常の痛み止め(消炎鎮痛剤)の胃を荒らす副作用が有名だからか、オピオイドもそのように思われているようです。しかし、オピオイドは胃を荒らしたりはしません。空腹時でも飲める薬です。

肝臓や腎臓を傷めたりする副作用もほとんどありません。このように意外と怖い副作用がなく使用できるのもオピオイドの特徴です。

【旭川医科大学病院 緩和ケア診療部 資料より一部改変】

発行 飛騨市民病院 緩和ケアチーム